

## 解 答

□

- ① 刻（む）      ② 気象      ③ 太古      ④ 海洋      ⑤ 天職

□

- ① けっぱく      ② から      ③ じりき      ④ めば（え）      ⑤ ふせいしゅつ

□

問一 くぎ

問二 I ア      II エ      問三 オ

問四 I 周囲の住人（周囲の住民）

II ゴミは収集日の午前八時から午前九時半までの間に出す（こと）

III 仕事の都合上ゴミのルールを守れない人々

問五 社会が様々な生活を営む人々によって成り立っていることに想像力を働かせ、一方的なルールを他人に強要するおかしさに気づくべきだ。

□

問一 オ      問二 エ

問三 あぶらをそそぐ      問四 ア

問五 リレーで晶子

問六 家のことは心配せずに思い切り走ってほしいと願う（気持ち。）

問七 オ

## 解 説

□

出典は、星野博美「銭湯の女神」。

問一 「くぎをさす」で、約束違反や言い逃れができないように念を押すという意味になります。

問二 I 「剣幕」とは、怒って興奮しているようす表します。

II ここで「七十過ぎのおばあさん」とは、筆者が引っ越してきたアパートの「大家のおばあさん」のことですね。「表の家からものすごい剣幕で怒られちゃって」と話す大家さんを見て、筆者は周囲の住民に対して反感を覚えています。――線部の直前の内容から、筆者は自分が悪いことを認めていますから、ここでの反感は、“大家さんをすごい剣幕で怒るのはおかしい”という内容であるはずで、ここで年老いた大家さんを叱りとばしても問題は解決しないはずで、ルールを破った人に注意するならわかりますが、ただ感情的に怒っているように感じただけなのでしょう。

問三 おかずを運んだり、新聞を印刷したりする人たちは、「生活の快適さ」をどうしているのか考えましょう。ここでの「生活の快適さ」は、ふだんから当たり前だと考えてしまうことです。そうした当たり前のことが当たり前になられるように働いているわけですから、「保証する」が適当です。「保証」とは、まちがいなく大丈夫であると責任を持つという意味です。おかずを運んだり、新聞を印刷したりする人たちは、そうした当たり前の快適さに責任を持っているのです。

問四 I この部分は「こちらにも言い分がある」というところから始まっています。つまり、ゴミのルールを守らなかったことに腹を立てて、大家さんにすごい剣幕で怒った人に対して、反論しているところです。ですから、「あなた」とは、すごい剣幕で怒っている人、すなわち「周囲の住人」（「周囲の住民」）のことを指しています。

II 「必ず収集日の朝に出して」「ゴミは午前八時以前に出してはならない」「ゴミ収集車は午前九時半にやって来る」という部分をまとめて答えましょう。

III ――線部より前の「言い分」を述べた部分に、「奥さん、あなたがスーパーで買うおかずを、夜を徹してトラックで運んでいる人たちがいる。～あなたが眠っている間に働いている人たちだっている」と書いてあります。現在のわれわれの生活の快適さは、ほかの誰かによって支えられているのだということを筆者は述べています。こうした仕事をしている人々は、ゴミのルールを守りたくても守れません。逆にゴミのルールを守る人ばかりになると、人々を支える仕事ができなくなってしまう。「ゴミのルール」を仕事のために守れない人によって生活が支えられているのです。

問五 自分のリズムでゴミを出し続けるということは、ルールに従わないということですから、「一方的なルール」に対する反対の意見を述べることになるでしょう。また、それだけではなく「社会の成員全員がゴミのルールを守れるような生活をしていたら、あなたの生活は成り立たない～なぜあなたにはそういう想像力が働かないのだろう」という部分からわかるように、筆者はゴミのルールを強要する人に「想像力」を働かせることを求めています。

四 出典は、森浩美「こちらの事情」。

問一 「晴れ舞台」とは、自分が活躍できて、名誉な場面のことをいいます。ここから「美代子」は運動が得意であることがわかります。「裸足の女王」という言葉からも、運動会で活躍していたことがわかりますね。

問二 まず「嘘」の内容を読み取りましょう。新しい靴を買ってやれなかったことをあやまる母親に対して「全然平気だよ」というというのが「嘘」ですね。おそらく家に十分なお金がないために靴を買えないのでしょう。そうした事情を察し、母親を困らせないように明るくふるまっているのです。

問三 ここで反論すれば、ますます相手の感情は高ぶり、大げんかになっていくでしょう。このように勢いをさらに盛んなものにすることを「火に油を注ぐ」と言います。

問四 「捨て台詞」とは、立ち去るときに言い捨てて、返事を求めない言葉です。ここでは「出ていってもらわなくっちゃねっ」という言葉は、相手へのおどしの意味を含んでいます。

問五 追いこまれていく気分ですから、どうすることもできずに悩んでいることがわかります。では、美代子はどんなことに悩んでいるのでしょうか。晶子の母親が「出ていってもらわなくっちゃねっ」と言ったことが関係しています。本番のリレーで勝てば、また言いがかりをつけられるのではないかと心配しているのです。そうした思いが書かれた二文をさがしましょう。布団の中で寝付かれなかったときの思いが手がかりになります。

問六 運動会を仮病を使って休もうとしたのは、リレーに出なければ家を追い出されることもないだろうと考えたからです。しかし、当日の朝になって父親から新しいズックをもらい、「美代子は、とにかく頑張れ」と言われます。美代子は追い出されないように勝負から逃げようとしていたのに対し、父は「何も心配することはない。～お前は何も気にせず思いきり走れ」と言ってくれました。家のことよりも、自分の娘が精一杯力を出し切ることを願う両親の気持ちに気づき、今まで逃げようとしていた自分を恥ずかしく思っているのです。

問七 カラスウリが最初に登場したのは、リレーのメンバーと一緒に帰宅する場面です。気に入らない晶子の態度について話すことで、「だから、一組だけには負けたくないよね」という連帯感が生まれたとき、速く走れるようになるというカラスウリが話題になりました。そして最後に悩んでいる美代子をはげますために兄がカラスウリをとってきてくれました。ここでは、美代子をはげます家族の気持ちがこめられたものだと言えるでしょう。